

令和7年度 高知県立盲学校 第1回学校運営協議会記録

【委員】※参加者は数字に○印 全委員出席

番号	氏 名	所 属 等	区分
①	原田 浩平	小高坂各種団体連携協議会副会長	地域住民
②	川田 裕一	越前町1丁目北町内会	地域住民
③	石川リエコ	高知県立盲学校PTA会長	保護者
④	高田 麻美	高知県立盲学校PTA副会長	保護者
⑤	上村 雅志	社会福祉法人 小高坂更生センター理事長	学校の運営に 資する者
⑥	中川 理沙	高知県身体障害者連合会 視覚障害者生活訓練指導員	学校の運営に 資する者
⑦	泉 奈江	オーテピア高知 声と点字の図書館館長	学校の運営に 資する者
⑧	伊藤 正孝	元高知県立盲学校長	学識経験を 有する者
⑨	中野 直喜	高知県立盲学校長	学校関係者

令和7年度 第1回学校運営協議会

1 日 時 令和7年7月16日(水) 10:00~11:00

※9:30~10:00 校内授業見学

2 場 所 盲学校校長室

3 委員紹介

4 議 事 ①令和7年度の学校の概要の説明

②意見交換

6 議事概要

①令和7年度の学校の概要の説明

学校長及び教頭が資料に基づき、令和7年度の教職員数、児童生徒数、校内の取り組みや活動について説明、報告

→全国的にも児童生徒数の減少が学校運営上の課題となっている。

→(県内で頻発した教職員の不祥事案を受けて)今年度から学校経営計画に不祥事防止の取り組みを明記するようになった。

→次年度の国民文化祭や数年後の創立100周年に向けても取り組んでいきたい。

→引き続き、盲学校の理解啓発活動は報道機関などを活用して戦略的に進めていきたい。

②意見交換

【伊藤委員】

小学部の在籍状況を教えて欲しい。

【校長】

小学部4年が1名、5年生が2名である。

【伊藤委員】

学校での近況で課題はあるか。

【校長】

昨年度は生徒会活動が停滞していたので、今年度は子どもたちのつながりを強化すべく、取り組んでいる。手始めに生徒会室の整備に着手している。

あはき国家試験の受験生が在籍しているが、模擬試験の結果は芳しくないので、一層、指導を強化していきたい。

また、教職員の風通しを心配したり、悩みを抱えているとの声も聞かれるので、職員会などで全教職員に向けて再度、メッセージを発信していきたい。

【伊藤委員】

生徒会室の活用については、保護者の方も強い関心を寄せていると聞いているがいかがか。

【石川委員】

他の特別支援学校に在籍する子どもたちも多様な実態や発達段階があると聞いている。子どもが学校生活を送るうえで、カームルームなどの気持ちを落ち着かせるスペースの確保などに生徒会室を有効に活用できないか、学校とも相談して進めている最中である。

【教頭】

引き続き、防災教育を通じて、地域の皆様との連携協働に力を入れていきたい。学校のイベントなども適宜、ご案内するので、地域の皆様の参加をお待ちしている。

【川田委員】

チラシなどをいただければ、町内会で配布する等、協力していきたい。防災はみんなで取り組まないと課題を克服できないと思っている。

【上村委員】

10月の城西防災フェアにもぜひ協力をお願いしたい。

【原田委員】

12月には毎年行っている校区の避難訓練もあるのでよろしくお願いしたい。

【川田委員】

寄宿舍は浸水区域になっていると思うがいかがか。また最近では電柱の倒壊などが懸念され、通常の避難路などが塞がれる懸念がある。

【教頭】

寄宿舍周辺は30cmほどの浸水が予想されている。寄宿舍では複数のルートを使って避難訓練も行っている。

【伊藤委員】

授業中に地震が起きた場合は、校舎への垂直避難でよろしいか。また、保護者の方も同じ認識か。

【校長】

3階への垂直避難が第1次避難である。保護者の方にも周知しており、津波がおさまるまで学校で待機し、引き渡さないことも折に触れ、担当者から説明している。

【川田委員】

校舎は（南海トラフ地震では）浸水域ではないと思うがいかがか。

【校長】

ハザードマップなどでは対象区域外であるが、高知大の岡村先生によると高知市自体が数メートル地盤沈下するとの予想もあるので、絶対に浸水しないという保障はないと考えている。（耐震補強工事が完成しているのでも）校舎建物の倒壊は免れると思われるので、グラウンドよりも垂直避難が適当と考えている。寄宿舍も2次避難場所を校舎としている。

【川田委員】

学校周辺の地盤は盤石と考えているがいかがか。

【校長】

高知大の岡村先生によれば、学校周辺の地盤は安定していると聞いている。ただし、学校周辺の南北の河川から流入する水などにより、想定外の浸水被害も予想されるので油断はならない。

【上村委員】

学校長の指摘する通り、例えば、鏡川が大規模に氾濫すると決して安全とは言えない。

【伊藤委員】

盲学校が福祉避難所に指定されていることも地域の方に知ってもらうことは大切ではないか。

【校長】

教頭時代から地域の会合に参加して、福祉避難所の指定を受けるまでの過程に携わってきた。特に近年では高知市が個別避難計画を策定することを聞き、高知市に対しても（福祉避難所への避難を必要とする方が）周辺にどのくらい居住しているのか情報の開示を求めている。福祉避難所を開設したり、具体的な対応を考えると何も情報がないと実際の運営に大きな支障が生じると考えている。過去には周辺に酸素吸入が必要なお子さんがおられると伺ったことがあるが、現状の盲学校の福祉避難所での施設設備では対応ができない。やはり、どのような支援を必要とされているか事前準備を進めるためには、情報が必要と考える。

【上村委員】

確か地区代表の方のもとには、（要支援者の方の）名簿があると思うのだが。

【原田委員】

（要支援者の方の）名簿はあるが、実際には個人情報の開示が難しい方も多く、実際のものとのくらい整合性があるかわからない。

【川田委員】

近隣の官舎には高知県警の災害時に即応体制を必要とする職員が入居していると聞いている。

【原田委員】

支援を必要とする方、ご本人は福祉避難所の存在を知っていると思われる。

【川田委員】

大規模災害時はまず、地域の避難所（城西中学校）が開設され、その後、福祉避難所が開設されると認識している。

【校長】

（川田委員）ご指摘の通りで、支援が必要な方は地域の避難所から福祉避難所に適宜、移動することになると思う。個人的には先ほどの情報開示を解決し、福祉避難所ができるだけ早く機能させるためには、要支援の方が自ら盲学校の福祉避難所に避難することを前提とした事前登録制などを提唱したい。特に事前登録制の方には盲学校の避難訓練にも年1回ぐらいは参加していただいて、盲学校の校内を知っていただくなど、万が一の時には安心した避難生活につなげていきたい。

【伊藤委員】

かつて、高知北高校の校長を務めていた際に鏡川が氾濫し、避難所開設もしていないうちから、周辺の住民の方が高校の校舎に避難してきた経験がある。実際には現場は混乱して、避難される方が大量に押し寄せると収拾がつかなくなる恐れもあった。福祉避難所であっても本当に支援を必要とする方か地域の避難所で生活する方がよいのか現場で判断するのは難しくなるのが実際のところではないか。地域の方に正しい知識をお知らせするために城西防災フェアなどで理解啓発の意味でも福祉避難所のことをPRするのはどうか。

【校長】

さっそく、担当者に福祉避難所に関するチラシ作成と配布を検討してみたい。地域の方の協力につなげていきたい。

【川田委員】

四国は実際の救援体制が整うまでに時間を要すると思われるので、まずは3日程度、確実に命をつなぐ備蓄準備が必要と思われる。

【川田委員】

不祥事防止について、全国的な課題ではないか。高知県だけではないと思う。

仮に学校で生じた際の事前準備はあるか。

風通しのよい職場づくりにも「意見箱」を置くことも考えてはどうか。

【教頭】

ミドルリーダーを中心として、不祥事防止委員会を結成し、月に1回程度、自分事としてとらえるよう様々なアイデアを出し合っている。特に校長も触れた風通しの良い職場づくり、働き甲斐のある職場づくりなどを求める声が多い。

【川田委員】

不祥事発生時には、管理職の対応は大変だと思う。職場の風通しについては、相談できずに孤立してしまう教職員が生じないように配慮も大切と思う。

【伊藤委員】

チェック機能は大切だが、やりすぎてかえってギスギスした関係も不祥事防止につながらないので、バランスも大切ではないか。引き続き、風通しのよい職場づくりをお願いしたい。

【伊藤委員】

盲学校のPR活動について伺いたい。

【校長】

出張予算の範囲内で理療科対象の生徒の募集活動などハロワークなどに呼びかけている。

【川田委員】

地域おこし協力隊などに参画を呼び掛けて、第3者の視点で取り組んでみるのも面白いのではないかな。

【伊藤委員】

理解啓発活動について、点字図書館、ルミエールサロンなどの取り組みもお伺いしたい。

【泉委員】

ご利用されている方の高齢化も進んでいる。新規の利用者の開拓を目指して、理解啓発活動を展開していきたい。盲学校とは図書室と連携して蔵書の貸し借りをを行っている。

【中川委員】

ルミエールサロンの利用者も高齢化が進んでいる。関係機関との連携は医療機関、福祉行政機関、団体などとのつながりから見えにくさで生活上の困り感がある方を紹介してもらっている。また各種イベントに参加された方からの相談も年間を通じてある。

【伊藤委員】

その他、委員のからご発言はあるか。

【高田委員】

今年から障害者の余暇活動利用として、学校の施設開放をしてもらっている。具体的には体育館を活用させてもらっている。

【川田委員】

障害者雇用、特に行政機関の雇用率を気にしている。行政はあらゆる業務を委託にして、実質、障害者が行政機関に就労できないことにつながらないか。学校としても障害のある方の職域拡大に努力して欲しい。

【校長】

児童生徒の実態にもよるが、盲学校では主に理療科教員としての雇用も専門性の高い職業と考えている。

【中川委員】

ルミエールサロンの取り組み、イベントについて紹介するので、今年度もよろしくお願いいたします。

③その他

令和7年度 第2回学校運営協議会予定 令和8年2月25日(水)予定